善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善　正　寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

掲示板法話

「御免なさい」「いいよ」の応答が念仏の心です

締め切りの迫った原稿をパソコンで入力しようと試みたものの先方の求める入力画面に中々うまく入力・保存できない。やむを得ず、直接入力を断念して、添付ファイルで夜のうちにメール送信。その際、「この入力ソフトは使いにくいです。メールで送信します」と苛立ち紛れの言葉を添えてしまった。だが、翌朝届いたメールに「字数超過のため、入力できなかったのです。字数を減らしましたので、修正願います」とあった。「制限字数を超えると入力できない」と判明し、お詫びメールを入れた次第。

お礼は「有難う」、お詫びは「御免なさい」ですね。「有難う」は言いやすいが、「御免なさい」は中々言えません。丁度その日配達された『在家仏教』という雑誌の2月号の中に、『人皆御免なさい存在』(亀井鏡師)という記事を見つけて、そう痛感させられたのでした。

「愚者になりて(南無)往生す(阿弥陀仏)」、親鸞聖人八十八歳のお手紙の言葉がお念仏の一番分かりやすい日本語訳だと言われ、「御免なさい」「いいよ」の応答が念仏の心です、と説かれました。ある日、喧嘩している小学一年生の双子の孫を仲直りさせようとして、「どちらかが『御免なさい』と言うんだ。そうすると相手は『いいよ』と返す。この言葉は人間が生きていく上で、一番の大事なんだぞ」と諭しました。すると一方が「おじいちゃん、僕は何も悪いことしてないのに、どうして御免なさいというの」と反問したので、「小学一年生にして、もうこんなことを言うのか！」と大きな衝撃を受けたというのです。

でも教えに触れた子供が次のような詩を書いています。

ぶたにくとかたべるのは
いきるためやろ
でもぶたは　いのちあるやろ
かまきりは
ちょうちょたべんと死ぬし
「ごめんなさい」
「ありがとう」のおまいりが
報恩講なんだよ

（しらいゆうき・5歳）

5歳の子供がこんな詩を書けるのか、というとそうではない。幼稚園から戻ったゆうき君が言うのを聞いた母親が感動して書き留めたのでした。ものの命を頂いてしか生きられぬわが身を幼子に教えられました。「御免なさい」「いいよ」と許されて、生かされている身を自覚しながら「有難う」とお礼申しつつ、精一杯努めさせて頂きたいものです。

写真アラカルト
（お正月の風景）

「本年もどうぞよろしくお願いします」

平成25年元旦会参詣者記念撮影

お朝事4日間
亮爾もお参り！

次男夫婦に長男誕生（樹；いつき）

亮爾（10ヶ月目）

☆行事ご案内☆

◇門信徒会例会

2月17日（日）夜7時半より

① 仏壇のお荘厳から知られる浄土真宗の教え（ポイント解説）
② 総代・世話方選出方法の取り決めについて
（4月選出、5月総会での改選承認に向けて）

◇キッズサンガ「
2月2日（土）午後4時より『集い』お経、ゲーム等
６年生のお友達はあとわずか、来月は卒業証書渡します
毎日５時の鐘つき、誰でもＯＫ。ご褒美は当たり付ガム

善正寺ホームページ「三重　善正寺」で検索. トップページの左欄「善正寺だより」をクリック、ファイルを開くと1年分の寺報が見られます。毎日更新の「**住職と坊守のつれづれ日記**」が大好評。
開設4年6ヶ月で9万7千訪問突破、一日平均100ほど、コメント大歓迎、一面お問い合わせ欄よりのメールや悩み相談には即返信します

◇『一縁会テレホン法話』０５９・３５４・１４５４へ
お電話を！5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます

◇三重組コーラス　2月25日（火）午後1時半、西勝寺様にて

予告**『春季永代経』3月16日（土）**午後・夜、
17日（日）午後、法話**稲葉芳道先生**（奈良、初出講）

坊守スケッチ

小さな親切は余計なお節介なのか？

近くの郵便局に出かけた。正月明けで沢山の客で混み合っていた。手続きを済ませて再度呼ばれるのを待った。３席しかない椅子席が空いたので座った。そこへ赤ん坊を抱っこして、幼子の手を引き、大きなカバンを肩にかけた若いお母さんが入ってきた。用紙に記入して判子を押すらしい。片手で作業をするのは、不自由だろうと察した。思い切って「私が少しの間、抱っこしてあげましょうか？」と声をかけてみた。周囲は、イマドキ珍しいお節介焼きがいるものだという目つきで私を見た。若い女性は「結構です！」と言って、くるりと背中を向けた。誘拐犯もいる物騒な時代なので、用心しているのだろうか？この女性は、自分一人で頑張って子育てしている母親なのだと理解して座った。

しばらくすると、杖を突いた高齢の女性がやってきた。「ここへお座り下さい」と席を立った。「ご親切にありがとう。詰めれば一緒に座れますからどうぞ」と勧められた。少し窮屈であったが、老婦人と親しくお話ができた。「友人が自転車で転んで骨折し、寝たきりになりました。私は早くから自転車を止めて歩くようにしています。『転ばぬ先の杖』で杖を突いています。いつまでも若いと思っていても、思わぬところに落とし穴があるので用心しています」

短い会話であったが、その方から老いることの心構えを教えられた。

次に車を運転してきた女性も、杖を突いている。まだ杖を突くような年齢には見えない。怪我でもされたのだろうか？立って待つのは辛いだろうと、再び「どうぞお座り下さい」と声をかけた。中年の女性は、私の言葉を無視して座ろうとしなかった。

わずか15分ほどの郵便局での出来事であったが、現代の縮図を見ているようだった。近くで困っている人があっても関係ない。自分の得にならないことは関わりを持つことは拒否。年齢を重ねた大人でさえ、こういう風なのだから、イジメを受けている子供がいても、他の子供は見て見ぬふりをするだろう。

宮沢賢治の詩『雨にも負けず』の一節が私の心に浮かぶ。

「東に病気の子供あれば、行って看病してやり、西に疲れた母あれば、行ってその稲の束を負い、南に死にそうな人があれば、行って怖がらなくてもいいと言い、北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないから止めろと言い…皆にデクノボーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもせず、そういう者に私はなりたい」

私も他人からお節介焼きのオバサンと呼ばれようとも、近くに困っている人があれば、声をかけて手を差し伸べたい。

現代は下手に素人が手出しをするより、警察や救急車、専門機関に任せたらいいと言うが、私の世話焼きの虫は収まらない。時代が変わっても、心が通い合う温かい世の中は、身近な人への小さな親切の積み重ねではないだろうか？

☆寄稿

四日市市　川崎　孝一

☆大乗誌　送り届けて「めぐるくん」
有縁の朋へ　再度のお役

☆大遠忌　左手に数珠の　幼子は
慈母に寄り添い　弥陀のみ前に

☆無精者　来た分だけ　返す年賀状

☆水苔の　鉢に「福助」正座して
秋の香かもす　軒下辺り

☆精一杯　二階の丈に吊り下がる
ミニの電飾　路地に煌めく

♪三重組コーラス♪

☆練習・　智積西勝寺様　午後1時半
2月25日（月）・3月25日（月）

キッズサンガ・杉の子合唱団

夕方5時の鐘つきは年中無休。ご褒美当り付きガム。誰でも撞けるよ

☆2月2日（土）4時お経ゲーム他

☆**善正寺のホームページ**。「三重　善正寺」で検索可．毎日更新の**「住職と坊守のつれづれ日記」**が好評。開設4年6カ月で9万7千訪問。毎日平均100訪問。悩み相談メール、コメント大歓迎。

☆カンパ有難う☆

山中つや子様・青木あや子様・山中ユウ子様・松岡愛子様・澤田美智江様・岡本様・他匿名様より頂戴しました。感謝！

☆ホットニュース☆

☆1月5日次男夫婦に無事男児誕生！母子ともに順調。樹（いつき）と命名。私達には二人目の孫。初孫の亮爾（長男夫婦子）共々よろしくお願いします。

☆1月13日から16日までの4日間、報恩講お朝事には総勢20名ほどのお参り。生後10か月目の亮爾も、連日母親に抱かれて早起きして本堂へ。皆さんに可愛がられて成長しています。

【平成25年度今後の善正寺行事予定】

※3月16（土）・17（日）『春季永代経』講師稲葉芳道師（奈良）

※5月19日（日）午前総会・午後「公開法座」講師末本弘然師（大阪）

※8月24（土）・25（日）『秋季永代経』講師足利孝之師（尼崎）

※9月22日（日）午前・午後『小杉町仏教会追悼法要』講師鎌田宗雲師（滋賀）

※11月2日（土）午後・夜・3日（日）午前『報恩講』講師藤大慶師（京都府）

※11月23日（土）午前秋勧進

※12月7日（土）夜『お内仏報恩講』

お悔やみ申し上げます

★服部孝順様（12月28日79歳）合掌

★柳沢勝様（1月3日76歳）合掌

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」第230号をお届けします。◇この冬は随分寒さが厳しい。だが、「寒いねと話しかければ寒いねと答える人のいる温かさ」（俵万智）という世界がある。◇人間に生まれてよかった、と味わえる人生こそ大切に。合掌。

正月五日、次男夫婦に男児が誕生し、樹（いつき）と命名しました。長男夫婦の亮爾に続いて二人目の孫です。赤子の笑顔と成長は私の宝物、疲れた心と体を癒してくれます。NHKTV番組『父と子　市川猿翁&中車』を見ました。俳優香川照之氏が歌舞伎役者に転身するまでの300日間のドキュメンタリー番組です。両親（猿之助と浜木綿子）は香川氏が幼子の時離婚、45年間父親の味を知らずに育ちました。誰もが知る俳優でその地位に安住すればいいのに、敢えて苦ですが何故捨ててまで転身したのでしょうか？「自分は何の為に生まれ、どう生きればよいか？」その問いを抱いて毎日悶々と過ごしていました。父猿之助氏は8年前に脳梗塞で倒れ不自由な身。8歳の息子が「お父さんは歌舞伎の家に生まれたのに、何故継がないの？」の一言、「自分が今、この船に乗らなければ一生後悔する」と素人からの47歳の転身、大きなプレッシャーに押しつぶされそうになりながら支援者のおかげで無事初舞台を迎えました。「父と子45年の断絶を超えて歌舞伎でつながった絆」でした。勇気と決断で新境地を開拓した香川氏の挑戦に感動します。「生きることは手を抜かないこと、生涯精進し続けることだと父から学びました」。私達も子供や孫にそう言ってもらえるような親になりたいと、改めて思いました。寒さが一番厳しい折、くれぐれもご自愛下さいませ

平成二十五年二月　合掌　善正寺坊守　拝